

液状化防止対策構成図

- ①液状化の予想される地区全体に100m間隔に集水井を設ける。 ※河川の水位が高いので地下水の自然排水は不可能
- ②集水パイプを放射線状に埋設する。
- ③集水井に集まった地下水をポンプで汲み上げて、側溝又は貯水池へ放流する。
- ④集水井のバルブを調整することで、地下水の水位と地下に含まれる水量の調整が可能
- ⑤各々の地下における地下水の含有量は、3種類の深さの観測井で揚水試験をすれば分かる (専門知識が必要)
- ⑥必要以上に地下水を除去すると、地盤沈下の恐れがある。
- ⑦液状化現象が発生しない含水量の分岐点の判断は専門知識の学者に相談する。

集水井に集った地下水の利用方法

- ①貯水池に溜めて防火用水にする。
- ②地下水は温度が年中ほぼ一定なので、夏は夕方になったら路面の冷却、冬は融雪に使用する。
- ③災害時で断水した場合、移動式浄水装置で飲料水や生活用水を作る。
- ④移動式浄水装置で清水を作ると、夏はプールとして使用可能
- ⑤夏期はエアコンで冷房に利用
- ⑥冬季はエアコンで暖房に利用 (ヒートポンプで電気料格安)

